

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091400046		
法人名	有限会社 ケアサービス21		
事業所名	すこやかほ～む有住 (1階ユニット・2階ユニット)		
所在地	〒814-0033 福岡県福岡市早良区有田7丁目24番7号	092-833-8810	
自己評価作成日	平成25年01月15日	評価結果確定日	平成25年02月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	093-582-0294	
訪問調査日	平成 25年02月08日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく開放的なホームです。入居者の生活歴を大切に、それぞれに合った介護を心がけ、丁寧に入居者・ご家族・職員間の信頼関係を築く中で家族的な関わりができています。入居者が安心していきいきと生活できるように、年中行事を通じての社会参加や、楽しみや生きがいを大切に、外食や出前の機会を多く持ち、リサイクル・趣味・家事等の役割を持った活動を一緒に行い、医療と連携して健康維持に努め、生活意欲を高める事に力を入れています。職員は入居者・ご家族の心情に配慮し共感を持って、楽しく思いやりのある介護が行えるよう努めています。近隣のスーパーの方や住民との間にも、入居者・職員が気軽に相談や世間話ができる環境があります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「すこやかほ～む有住」は、利便性の良い市街地にあり、二階建て2ユニットのグループホームである。正面のスーパーに利用者と職員が、散歩を兼ねた日課の買い物に出向き、顔なじみの店員さんとの会話が弾んでいる。職員は、楽しい介護を目指し、「利用者の楽しみや、食べたいもの、したい事は何だろう」と常に話し合い、問題意識を持って介護サービスの提供に取り組んでいる。行事を兼ねた家族会を、年2回開催し、参加者が20名を越えることもあり、家族との信頼関係の構築に努めている。利用者の健康管理は、主治医による2週間毎の往診と、訪問看護を活用し職員の細やかな気付きと判断で、充実した医療連携が確立している。また、地域との交流も活発化し、ホーム夏祭りには花火等取り入れ、100人程の参加者で賑わい、地域住民との交流の輪が広がっている「すこやかほ～む有住」である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32.33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者中心の生活援助を基盤にした分かりやすく覚えやすい理念をかかげ、その理念の下に職員が職務を遂行できている。また、理念とは別に家族のように過ごしましようとのスローガンを掲げている。	利用者が、生き生きと仲良く健やかに暮らせるよう、優しく真心を込めた介護サービスを実践する事を、ホーム独自の理念に掲げている。また、職員は利用者や家族のような関係を大切に、「利用者の立場に立った考え方でやっていきましょう」と申し合わせ、職員一人ひとりが、利用者の安心に繋がる真心を込めた介護を実践している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の散歩、地域の行事参加、公民館での交流などを通じて地域の中にとけ込むよう努めている。また、地域の方の来訪や相談が自由に行えるなど、開放的なイメージで交流を図っている。	ホームの納涼祭は、家族や地域住民等100人以上の参加があり、芸能ボランティアの発表や、花火の打ち上げ等、盛大に行なっている。また、中、高生の体験学習の受け入れ、介護に関する相談等の受け付け、ボランティア募集の広報等、積極的に地域との交流に取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日頃利用するスーパーや隣近所に対しては友好的なイメージがあり、自然に援助協力関係が保て、認知症の人の理解や支援の方法については交流の際の態度で示すように努め自然に理解が得られている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で上がった意見を反映させる取り組みがある。民生委員や行政の参加を通じて、活発な意見交換ができ、サービス向上に生かされている。施設周辺の歩道環境整備等においても連携が図れている。	会議は、2ヶ月毎に開催し、委員が多忙で全員参加が困難な状況であるが、状況報告、ホーム周辺の歩道の改善に関する提案、家族の問題や終末期ケアの問題、感染症予防対策意見交換等、毎回議題を上げて検討し、議事録、報告書に詳しくまとめ、内容の共有に努めている。ホーム周辺の歩道の補修については、行政に提案し、前向きに検討されている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福岡市役所・区役所の介護保険関係の担当との連絡や相談を密にして、協力関係を築けている。	行政担当窓口に出向いたり電話等で、ホームの現状を報告し、課題や困難事例についてアドバイスをもらう等、行政窓口との連携は密にしている。また、運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席し、ホームの実情や取り組みについて理解を得ている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修で勉強し意識を高めることができている。現在は実例の枠にしばられず柔軟に拘束に当たるものを排除する意識付けができている。本人の立場に立って、本人が不自由や苦痛を感じないように努めている。	身体拘束廃止マニュアルを用意し、年に1回以上は会議の場で研修を行い、日常的にも話題に上げて、言葉による拘束も含め、職員全員に意識付けを行っている。また、常に利用者の立場に立って考え、職員同士で気づいた事を伝え合い、検討しながら拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修等を通じて援助者の心構えを確認し、虐待が起こらないような環境づくりに努めている。(会議の中で社内研修として取り組んでいる。)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について、内部研修および実例をもとに勉強し、利用中の方には後見人との連絡を密に取り入居者を支援できている。地域包括支援センターとも連携し、お困りの方に相談を呼びかける体制がある。	制度利用者が2名おられる為、管理者や職員は身近に制度を感じ、理解する事が出来ている。また、内部研修会を通じて理解を深め、利用者や家族が制度を必要とする時、地域包括支援センターと連携し、活用に向けての支援体制を整えている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	補足資料を作成し、十分な説明を行い理解・納得を図っている。また、重度化された場合の対応などについて、入居時からお話ししていくようにしている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会をはじめ、行事等で交流する機会を持ち、また日々の面会時にその都度アンケートや直接意見交換する事で検討や相談を行い迅速に問題解決を図れるよう努力している。	ホームの行事(納涼祭、クリスマス会)と合わせて家族会を年2回開催し20数名の参加があり、ホームへの関心の高さが伺える。家族会での意見交換、面会時の声かけ、電話での連絡等、管理者は家族との関係を密に取りながら意見、要望の聴き取りに努めている。玄関には意見箱を設置し、苦情相談窓口を掲示し、利用者や家族が安心して意見や要望を表せる体制が整っている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等で意見交換する機会を設けている。管理者は別に相談の機会を持ったり、職員から意見をすくい上げ、運営者・職員全体でホーム運営向上に努めている。	職員会議を毎月定期開催し、カンファレンスや研修会を兼ねて充実した会議になっている。「楽しく介護をしよう」「利用者の楽しい事、美味しい事、やりたい事って何だろう」と、問題意識を持ちながら活発な意見が出され、シャワーチェアへの購入や、利用者の健康管理、生きがい作りに結び付く会議となっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	配慮している。	職員の採用は、人柄や優しさを重視し、年齢や性別、資格等の制限はない。ホームで働く職員は、声をかけ合いそれぞれ工夫して休憩を取るようになっている。また、畑仕事や掃除、創作、レクリエーション、料理等、職員の特長を活かした介護サービスの取り組みは、職員の向上心とモチベーションを保ち、働きやすい職場環境作りに繋げている。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権尊重と待遇などにおいて、社内研修を通じて取り組んでいる。全体の会議において、必ず人権について考える機会を持つようになっている。活発に意見交換やディスカッションを行う事が職員のトレーニングにもなっている。	外部研修の受講はないが、内部研修の中で、職員一人ひとりが、利用者の尊厳を守るためのサービス提供について学び、言葉遣い等、気になる時には職員間で話し合い、利用者が安心して安全に暮らせるための環境作りを目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加してもらい、会議の際に発表している。内部研修は自主性を促す為、月毎に担当を決め発表してもらっている。職務をマスターする為のトレーニングについても様々な取り組みを行っている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者・医療施設などとのネットワークが広がってきた。サービスの質の向上と入居者の交流を目的とした活動の一環として、近隣の施設の誘いもあり、祭りなどを通じて同業者との交流が図れている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話の受容、表情・動作などの観察を常に行っている。本人の困りごとをいかに少なくするかが私達のケアである為、入居後年月経っても姿勢は変わらず職員全員で入居者の安心と信頼関係の確保に努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より随時相談を受け、入居後も少しの状態変化でも報告して、本人や家族の困りごとをしっかりと把握して支援するよう努めている。家族の事情や心情も十分勘案して対応していくようにしている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント結果の把握と情報共有を行い、当施設以外にも他施設や地域包括支援センターなどの紹介、資料をお渡しするなど努め、対応ができています。地域の方の相談窓口としても機能できています。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共同生活者」として、随時及び定期的に職員間で話し合い、本人の話に傾聴し、意見を聞きながら、日々入居者が充実感を得るよう意識して援助している。じっくりと時間をかけて信頼関係が築けている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来設の際、ご家族の労をねぎらい、話を聞くようにしている。家族と共に目標を達成していけるよう努めている。医療も含めてそれぞれが提案をして、家族と一緒に解決する姿勢でいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・外出泊・外食を自由に支援している。なじみの方の面会を勧め来やすい雰囲気を作り、本人がなじみの人を忘れても良い関係の継続が図れている。なじみの方に関係が途切れないよう行事案内を出している。	利用者入居時には、知人や友人、近所の方の面会も多いが、利用者の重度化や友人、知人の高齢化に伴い、面会も少なくなっている。職員は、出来るだけ沢山の方の面会が可能になるように、声かけ、雰囲気作り等支援している。また、入居後の利用者同士の交流や職員との新しい馴染みの関係作りに努め、利用者の生きがいに繋がる支援をしている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の人間関係を把握し、良い距離感で職員が間に入ったりして、ホーム内の人間関係が良好に保たれている。1階と2階の入居者同士の交流もあり、良い気分転換となっている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も必要に応じて連絡したり情報提供及び相談を行う取り組みがある。転居先のホーム又は病院にご様子を伺ったり、手紙を出したりということがある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別レク、担当職員の配置にて月単位での目標を立て評価を行いその後のケアに反映させているが、家族を含めた本人の暮らしに対する意向や抱え込んだ思いの中にもう少し深く踏み込んでいく必要があると考える。	職員と利用者は、長い時間をかけて信頼関係を作り、利用者から希望や要望が聴きだせる雰囲気作りに努めている。利用者アンケートとして、「どこに行きたいですか?」「何が食べたいですか?」等尋ねて記録し、利用者の思いを出来るだけ反映出来るよう努力している。利用者の意向表出が困難な場合は、家族に相談したり、ベテラン職員の意見を聞きながら、利用者が、生きがいを持って暮らせるよう支援している。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の性格や生活歴を大事にして、普段の声かけや対応に配慮している。入居時のアセスメント・サマリーを入居後の生活に生かしている。一方、新しく再構築し、慣れたホームでの生活環境にも配慮している。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員の配置と日頃の観察にて情報の共有に努めている。申し送りノートの活用、随時職員同士で話し合いを行うなど実施している。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎週、月1回、および随時サービス担当者会議を開催し、全体会議や、問題が発生した時点で随時出勤者にて話し合いを行い、適切なプラン実行に努めている。3ヶ月に1度のプランの見直しを行い、本人や家族にも相談し介護計画を作成している。	介護計画は、利用者や家族の希望を聞き取り、主治医や関係者と話し合い、それぞれの意見を反映しながら作成し、3ヶ月毎の見直しを行っている。利用者の重度化や急変に備え、家族と常に連絡を取りながら方針を確認し、関係者全員で共有して、その都度現状に即した介護計画の作成に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録だけでなく、重要な情報共有には必ず口頭でも伝えている。毎朝の申し送り時や、遅出・夜勤入りの職員が来た時必ず記録と口頭で情報を伝える。毎日個別ケア及びケアプラン実施の確認の記録をつけている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状でできる事を取り組んでいる。その時々生まれるニーズに対しては出来るだけ応えているが、本来持っている事業所の「多様性・可能性」を深く探り、検討していく段階であると考える。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館を利用し、イベント時の物品貸し出しを依頼している。警察・消防にはご挨拶に伺い協力を依頼している。学生・一般・芸能ボランティアなど複数のボランティアが来られていて、その数も近年増えてきている。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を大切に、協力病院との連携を密にして、内科主治医及び必要時には他科の医師より、症状に応じた適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医は、利用者や家族の希望を優先し、柔軟な対応で受診支援をしている。協力医療機関による2週間毎の往診と訪問看護により医療連携体制も整っている。また、利用者個人の状態、注意点を細かく記録し、職員間で、情報を共有する事で、利用者が安心して適切な医療を受けられるよう配慮している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と連携して日常の健康管理の支援をしている。必要に応じ医療処置などで来所されている。毎日の電話による申し送りを通じて連携を取っている。普段と違う様子など何でも相談できる関係ができています。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。特に受診・入院歴のある病院や入退所に携わった病院とは連携を深めるよう努めている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状態に応じ、個別に対応や今後の方針等について家族と話し合いを重ねている。良い面も困り事も含めて家族への状況報告を行い、随時関係者との話し合いや連絡調整を行うようにしている。重度化および終末期に向けた方針について説明し、家族の理解と協力が得られている。	重度化や終末期に向けた方針について、家族会等で説明し、ホームで出来る事、出来ない事を、利用者や家族に伝え、承諾を得ている。利用者の状態に応じて個別で家族と話し合い、利用者一人ひとりがホームで暮らし続けるための支援の在り方を検討し、利用者、家族の安心に繋がる重度化の支援体制の確立に向けて努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	早めの主治医報告と、個人の病歴や出やすい症状を頭に入れ対応する事を意識し、緊急時対応マニュアル・個別対応マニュアルや救急情報を活用している。搬送事例の経験をもとに、職員も慣れてきている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	申し送りや会議の時に、どのように実行するか話し合っている。災害時の為に、お互いに地域の人の協力を得られるよう、近隣に働きかけを始めている。地域の方の防災訓練参加がある。	消防署の指導と協力を得て、年2回避難訓練を実施し、2階の利用者は広いベランダに避難する等、避難経路、避難場所の確認を行っている。日頃から近隣の方に協力を呼びかけ、地域の方が訓練に参加される等、協力関係が築かれている。また、非常災害時に電気、水道、ガス等、使用出来ない場合を想定し、非常用備品、非常食、飲料水等の備蓄の検討も始めている。	
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナーの再度徹底と周知を図り、日頃の言葉かけや介護について意識を高めるよう努めている。また、個人情報の取り扱いやプライバシーの保護については慎重に行っている。	職員は、利用者を人生の先輩として尊敬し、優しい声かけやさりげない見守りで、プライドや羞恥心を傷つけない介護サービスの取り組みを目指している。ホーム内での職員同士のやり取りは小声で行う等、接遇やマナーについても意識の向上に努めている。また、個人情報の記録の保管や職員の守秘義務の徹底等、十分な配慮がなされている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がどうしたいのか聞き決定権を持ってもらう。話したそうにされていたら話を聞き、話を引き出す。自立援助を基本に、本人が希望される事や、できることをしてもらうことで達成感を得られるように援助する。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを整える事を前提に、声かけをして何をしたいか聞き実行する。また意思の疎通の難しい方には、本人の伝えたいことを汲み取る姿勢で対応する。本人の日課を大事にして希望にそって援助している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月単位で髪を切ったり染めたりする。(理容室の方が来所)髪や衣服など、身だしなみができるように支援している。清潔に気を配りその人の納得いくおしゃれを尊重している。特に化粧などの習慣を重要視している。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者・職員と一緒に準備や後片付けをしている。野菜切り等の食材の仕込みは出来る方が少なくなってきたが、その代わりに下膳・洗い物・トレイ拭き・台拭きなど出来る事を日常的に役割を持って行っている。アンケート等で好みを取り入れた外食や出前のできる環境がある。	カロリー計算された献立を元に食材が配達され、職員が調理している。洗い物やトレイ拭き、台拭き等、利用者の残存力を活かしている。食事が集中出来るように、職員と一緒に食事は摂らず、食事介助と見守りを行い、静かな食事風景である。また、献立や食材については細かく業者とやり取りを行い、少しでも美味しい食事が提供出来るよう努力している。2ヶ月毎に行う外食レクリエーションは、利用者の大きな楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	随時主食の量を加減したり、食事・水分摂取量の記録をとり、足りない方には数回に分けて、種類を変えて提供する。嘔みにくい方、飲み込みにくい方、発熱・下痢等状態の悪い方には食形態を変えて提供する。個別にジュレ飲料や梅干等の提供も行っている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	モーニングケア、食事後の口腔ケアの実行、トラブルがあった際には歯科往診をしている。一人一人に合った方法で実施している。義歯洗浄剤を定期的に使用している。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人が不安や不快感なく快適に排泄できる事を第一に考え、トイレ誘導・おむつ交換を適切かつ臨機応変に対応できている。パットの種類を検討し、家族とも相談しながら物品を購入する。必要に応じて個人別の排泄確認表を活用し医療と連携して下剤の調整を行っている。	職員は、利用者の排泄パターンや日常的な習慣を把握し、早めの声かけや誘導でトイレでの自立に向けた排泄の支援をしている。「やきとりじいさん体操」等、便秘予防の取り組みも積極的に行っている。また、利用者の重度化により、紙オムツの使用量増加に伴う家族の負担を考えて、オムツメーカーの職員から、オムツに関する勉強会を行なっている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分補給、散歩、腹部マッサージ、お腹を温めるなどを実施するとともに、生活リズムの安定に努めている。また排泄表を活用している。ヨーグルト・バナナ・青汁他の提供など適宜おやつを工夫している。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気持ちよく入浴できるよう配慮して実施している。一人に対して30分の枠を設け、ゆっくりコミュニケーションをとりながら実施する。洗い足りない所や皮膚トラブルの部分はサポートする。曜日と時間を決めている。	入浴は週2回一人30分、ゆっくりと時間を取り、室温に注意し、必要な方には二人介助を行いながら、安全に配慮して実施している。入浴が利用者にとって負担や不安にならず、楽しい時間になるよう、個別に好みのシャンプーを用意する等工夫しながら支援している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室でくつろぎたい方は、ゆっくりしていただき、遅めの起床にも対応している。メリハリをきかせて交流やレク参加を促している。昼間の活動量を十分に取り安眠を促すよう努めている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局と連携して情報交換を行いながら、薬作りから服薬確認までの担当を分けミスのないよう配慮している。服薬担当は記録にサインをする。個人別の薬保管棚を使用し情報を確認できる。薬の変更は申し送りノート・往診報告書・口頭で確認する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動が日課となり、自主的に張り合いを持って生活されている方もいて活気がある。本人の意向を汲み取り、希望を聞いて、それぞれの役割を持って能力を発揮して頂ける環境がある。それぞれの趣味・楽しみごと・気分転換となる活動を一緒に考え提供している。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の意向をうかがい、リサイクル活動や買物等目的を持って散歩や外出の援助を行い、気分転換を図っている。運動不足にならないように気を付け、外食にも出かけている。家族との外出・外食の機会が多いほうである。	広い駐車場や、玄関横の畑に出てみたり、室見川沿いの散歩や正面のスーパーでの買い物等、利用者の日々の暮らしのメリハリと生きがいに繋がる外出の支援をしている。また、2ヶ月毎の外食、誕生日には利用者職員が、マンツーマンで行きたい所へ出かける等、積極的に外出の機会を作り、利用者、家族に喜ばれている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	散髪代・医療費・買い物代等自分で管理し支払える方には支払ってもらい、できない方や不安な方は管理者が帳簿をつけ管理する。必要に応じ現金を持って買い物をして頂く等の工夫がある。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、また落ち着かない時、不安な時等家族への電話の支援をしている。手紙を出したい方にもお手伝いをしながら支援している。家族宛の年賀状を書いて頂く等のサポートがある。返事が届いた時には職員と一緒に読む等している。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や共用部分には季節ごとの飾り付けがあり、入居者との共作も並んでいる。生花を飾る事もある。入居者や家族が気持ちよくホームをご利用できるような配慮があり、明るさ・音・雰囲気等住空間の快適さと清潔を意識している。好きな時間に時代劇の有線放送やDVD等を視聴できる環境がある。	広々とした室内は、季節の花や利用者で作った貼り絵の作品、油絵等が飾られ、家庭的な雰囲気を演出している。また、広いベランダに面したゆったりとしたリビングルームでは、気の合う利用者同士が楽しそうに会話し、落ち着いた居心地の良い共用空間となっている。日常のよいエレベーターホールには大きなソファが置かれ、寛く利用者の姿が見られた。敷地内の畑も、日常的に利用者が外の空気を吸いに出るお気に入りの場所である。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部に何ヶ所かつるぎのスペースをつくり、ソファを置き和みの空間作りをしている。その空間で思い思いに談話・体操・作業等をされており、全員集まる時間との使い分けをされている。居室に入居者同士で招待して談話されたりもしている。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使ってきたなじみの物(タンス・椅子・洋服)を持ってきて使用される方もおられる。コップ・箸・バッグ・なじみのある写真・本などの小道具も活用されるが、新しい小物や家具・生活環境に抵抗のない方も多い。	居室には、管理者による手作りの表札が掛けられ、出来るだけ自宅と違和感のないように、利用者の使い慣れた筆筒や仏壇、小物、家族写真等持ち込んでもらい、落ち着いた雰囲気作りを心がけている。利用者の重度化に伴い、様々な理由で少しずつ私物を減らさなければならぬ場合もあるが、出来るだけ温かな雰囲気とその人らし居室になるよう配慮している。	
		建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事故防止の為家具配置やベッドの位置工夫に配慮している。下駄箱に名前を書き居室には表札を出している。玄関に椅子を置き座って靴が履ける配慮がある。共用部はバリアフリーで手すりがあり広い歩きも可能。		